



報道関係各位

平成 24 年 12 月 4 日

雪印メグミルク株式会社
平成 24 年 12 月
《第 41 回日本免疫学会学術集会》
研究発表

「Preventive effect of the oral administration
of *Lactobacillus gasseri* SBT2055 against
Influenza A virus infection.

(プロバイオティクス「ガセリ菌 SP 株」の
経口投与によるインフルエンザ A ウイルスに
対する感染予防効果)」

雪印メグミルク株式会社(本社:東京都新宿区 代表取締役社長:中野吉晴)は、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」に基づき、「おいしさ」と「健康」を追求するための研究を行っております。

この中で、北海道大学遺伝子病制御研究所内に当社が寄附講座として開設させていただいている、プロバイオティクス・イムノロジー研究部門において得られた乳酸菌の新たな知見について、12月5日から神戸市で開催される、第41回日本免疫学会学術集会において、下記のとおり研究発表いたしますので、ご案内申し上げます。

記

◆研究発表概要

演題名 Preventive effect of the oral administration of *Lactobacillus gasseri* SBT2055 against Influenza A virus infection.

(プロバイオティクス「ガセリ菌 SP 株」の経口投与によるインフルエンザ A ウイルスに対する感染予防効果)

発表者 ○中山洋佑¹、酒井史彦^{1,2}、塩崎拓也¹、細谷知広^{1,2}、
中川久子¹、宮崎忠明¹

○は発表者

(1 北海道大学遺伝子病制御研究所、2 雪印メグミルク株式会社)

発表日 12月5日(水)13時20分～14時40分(ポスター発表)

◆研究発表内容の要約

当社保有のプロバイオティクス乳酸菌である *Lactobacillus gasseri* SBT2055 (ガセリ菌 SP 株) には、整腸作用をはじめとして内臓脂肪蓄積抑制作用や抗炎症作用等の有用な生理機能のあることが、これまでの研究から明らかになっています。北海道大学遺伝子病制御研究所内に当社が寄附講座として開設させていただいている、プロバイオティクス・免疫ロジー研究部門にてさらに研究を進めた結果、今回、マウスにおけるガセリ菌 SP 株の経口投与によるインフルエンザウイルスに対する感染予防効果が明らかとなりました。この成果について、免疫研究の専門家が一堂に会する第 41 回日本免疫学会学術集会において北海道大学遺伝子病制御研究所プロバイオティクス・免疫ロジー研究部門より報告を行います。

ガセリ菌 SP 株を経口投与したマウスとガセリ菌 SP 株を投与しなかったマウスに H1N1 型インフルエンザウイルス A/PR/8 を経鼻感染させたところ、ガセリ菌 SP 株を経口投与したマウスでは、ガセリ菌 SP 株を投与しなかったマウスに比べてウイルス感染後の生存率が有意に高くなりました。更に、肺組織中のウイルス量と肺組織の炎症を示す指標は、ガセリ菌 SP 株を経口投与したマウスでガセリ菌 SP 株を投与しなかったマウスよりも低い値を示したことから、インフルエンザウイルス感染で起こった肺の過剰な炎症状態が軽減化されることによってマウスの感染後致死率が低下している可能性が示唆されました。これらの結果から、ガセリ菌 SP 株は、経口的に摂取された後に、腸管から離れた組織である肺の免疫機能を調節することで、インフルエンザウイルスに対する生体防御機能を高められていることが予想されます。

今回の結果は、ガセリ菌 SP 株摂取のインフルエンザウイルス感染に対する予防効果とその作用機序の一端を示すものです。今後、更なる検討により、ガセリ菌 SP 株が持つ生態防御機能の解明が進むことが期待されます。

◆学会開催概要

第 41 回日本免疫学会学術集会

会期 平成 24 年 12 月 5 日 (水) ~7 日 (金)

会場 神戸国際展示場 (兵庫県神戸市)

以上

本件に関するお問い合わせ先
雪印メグミルク株式会社 広報部 TEL 03-3226-2124 FAX 03-3226-2150